

学校自慢

「子供が豊かに育つ教育 世の中を優しくする学校」を目指して

県立君津特別支援学校校長 ささき みさお 佐々木 操



1 はじめに

本校は、全校生徒302名、76学級の県内でも大きな特別支援学校の1つである。

過密化による教室不足や狭隘化が課題ではあるが、教職員がいつも笑顔で元気に子供とかわり、創造と工夫による教育活動を展開している。

2 「チーム君特」で「できる」を創る！

(1)防災の達人を目指して！

令和3年度に県の指定を受けて取り組んだ「命の大切さを考える防災教育」。自分で迅速な「行動」がとれるようにする「自助」と、学校・家庭・地域等が子供たちに代わって適切な「判断」等を行う「共助」の両輪で子供たちに「命の大切さ」を伝えていくことが大切だと学んだ。各学部の実態に応じた防災学習や避難訓練、防災給食など、継続して実施しており、事前指導用の動画やワンポイント避難訓練など、活動の拡がりとともに、子供たちの意識は高まっている。

(2)学びの足跡を大事に！

過密化で活動場所が限られる中、学級や学年での学習の記録としての掲示物や制作活動としての作品が、教室や廊下の壁面に溢れている。梅雨の時期には、工夫を凝らした数十種類の紫陽花を見ることができし、学習の記録に必ず添えられる温かい担任のコメントに、子供たちの笑顔が輝く。



(3)心に届く性教育！

体の名称や洗い方、男女の体の違い、思春期の体の変化、友達との距離感など、発達段階や実態に応じた性指導に取り組んでいる。また、多様な性について考えたり、生命誕生について助産師を招いて話を聞いたりする中で自分を大切にすること、そして友達も大切にしようとする心の育みにつながっている。

(4)目指せ むし歯ゼロ！

保健室から発信された「感染予防の歯磨きスタイル」。マニュアル化され、養護教諭が各クラスを回することで、担任と連携して歯磨きの指導を行っている。学校医の協力もあり、毎日の積み重ねが習慣となり、むし歯への関心とともにむし歯の治療率が上がり、むし歯のない子供が増えてきた。

(5)給食もみんなで！

給食で使うたまねぎの皮むき、空豆の鞘取りなど、食材の下準備を手伝う機会を設けている。準備に携わることで苦手な野菜も食べてみようという気持ちの芽生えにつながっている。また、ペースト食の子供たちには、ペースト食アートを通して、目でも楽しめる給食に食欲が増している。



3 おわりに

伸びようとする子供たち。その可能性を最大限に引き出し育てるとともに、その営みを通して、子供たちの持つ純粋な心や人を元気づける力などにより、世の中を優しくする学校を目指していく。